スピード感のある対応で着実な歩みを

稲沢市長　加藤錠司郎

あけましておめでとうございます。

日頃は稲沢市政に対しまして、皆さまからの深いご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの数波にわたる感染拡大と、それに伴う緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が、市民生活に甚大な影響をもたらしました。

行政におきましても、新型コロナウイルスのワクチン接種を市民の皆さまにいち早く、安全・円滑に実施できるようにすることが、市長として最大の使命であるという思いを持って事業を進めてまいりました。ワクチンの供給量が不透明な中であっても、皆さまのご協力により、令和３年11月末には希望されるほぼ全ての市民の皆さまに、２回の接種を行うことができました。

また、昨年はＧＩＧＡスクール構想を実現するため、小･中学校の児童生徒に１人１台のタブレットＰＣを整備しました。今後は、長期にわたり学校が休業となった場合であっても子どもの学びを保障するため、オンラインによる授業が実施できるよう環境整備を進めてまいります。

そのほか、キャッシュレス決済ポイント還元事業を始めとする市独自の緊急経済対策や、市税などのスマホ決済、一部手数料のキャッシュレス決済といった非接触型納付方法の導入など、コロナ禍を契機とした行政改革にも取り組んでまいりました。

今年も引き続きＷｉｔｈ／Ａｆｔｅｒコロナ社会を意識しながら、限りある財源や人材を効果的に活用し、行政サービスのデジタル化や、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者への支援、３回目のワクチン接種を進め、一日でも早く以前の生活を取り戻していただけるよう職員一同スピード感を持って全力で取り組んでまいります。

結びに当たり、皆さまにとって新しい年が健康で幸多き年になりますよう、心からお祈り申し上げまして、新年のあいさつとさせていただきます。

市民に開かれた議会を目指して

稲沢市議会議長　服部　猛

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、健やかに初春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃から本市議会の活動に対してご理解と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は緊急事態宣言の発出下において､延期になっていた東京2020オリンピック･パラリンピック競技大会が１年越しに開催されました。ほとんどの競技が無観客試合となりましたが、多くのアスリートの皆さんがメダルを獲得され、競技に対するそのひたむきな姿に勇気と感動をあたえていただきました。

日常生活が制限され、何かと不自由さや不便さを実感する状況の中、さまざまな分野でデジタル化に対する課題が浮き彫りになり、昨年９月には「誰一人取り残さないデジタル社会の実現」を目指してデジタル庁が創設され、デジタルで豊かさを実感できる社会の実現に向けて本格的に動き出しました。本市議会においてもＩＣＴ化を推進し、二元代表制の一翼を担う機関としてさらなる議会改革を進めるとともに、市民に信頼される開かれた議会を目指してまいります。

未だ新型コロナウイルス感染症の終息は見通せませんが、引き続きその予防対策に取り組むとともに、本市ではキャッシュレスポイント還元事業を始めとする市独自の新たな対策により地域経済の活性化を図っております。本市の財政状況は、今後も厳しい状況が続くものと予想されますが、稲沢市ステージアッププラン（第６次稲沢市総合計画）に掲げる政策や事業を着実に推進させ、新たな時代に対応する魅力的で暮らしやすいまちになるよう、市議会としても協力していきたいと思います。

結びに、市政発展のため、市民の皆さまのさらなるお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が、皆さまにとって一層輝かしい実りある年となりますよう祈念し、新年のあいさつといたします。